

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都文教大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトブンキョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	大学コンソーシアム京都
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	総合社会学部・臨床心理学部
	担当教職員名・役職	松井愛奈 就職委員長
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	23	
受入企業等数	20	
受入企業等名	医療法人社団千春会/株式会社ワイングロッセサリー/医療法人財団康生会武田病院/株式会社ユメコム/株式会社ハートフレンド(総合食品スーパーフレスコ)/株式会社ハトヤ瑞鳳閣/株式会社ビックスマイル/株式会社OVO/一般財団法人京都ユースホテル協会/三共精機株式会社/琵琶湖ホテル(京阪ホテルズ&リゾート株式会社)/公益財団法人京都市ユースサービス協会/株式会社古裂會(オークションハウス 古裂會)/株式会社花工房/京都シネマ/京都市/株式会社ディレクターズ・ユニブ/株式会社図書印刷同朋舎/京都新聞企画事業株式会社(京都新聞旅行センター)/オーバルオブテックス株式会社/特定非営利活動法人ピープルアクティブライフ	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学コンソーシアム京都を通じて、期間10日以上で設定されたビジネス・パブリックコースと期間5ヶ月で設定されたプログレスコースへ230名が参加し、21団体でインターンシップを行った。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当該科目は全学共通科目の選択必修科目単位として設定している。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習に向けた目標と仮説設定を業界研究を通して言語化することをねらいとして、1クラス15名前後で編成されたゼミ方式で実施。企業担当者の協力を得て、社会が求めるスキルや心構えを学んだ。その他、ビジネススキル研修、リスクマネジメント講習を行った。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習で経験したことを他者へ伝え、他者が経験から学んだことを聞くことにより、事前学習で設定した目標の達成や仮説の検証を行った。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後学習を実施するとともに、インターンシップ期間中に教職員が受入先を訪問し、実習状況の確認を行った。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後に各自レポートを提出するとともに、プログレスコースは成果報告会を、ビジネス・パブリックコースは実習経験交流会を開催し、意識や行動の変容について確認を行った。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ビジネス・パブリックコースは10日間以上、プログレスコースは5ヶ月のインターンシップを行った。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	教育プログラムであることの理解を得るために、受入企業には説明会を実施しているとともに、事前・事後学習でも協力を得ている。また、インターンシップ事業企画検討委員会の委員として受入企業にも加わってもらっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyoosyllabus/
問い合わせ先	大学等名	京都文教大学
	担当部署名	就職部
	担当者役職名	就職部長
	担当者氏名	川本博信
	電話番号	0774-25-2524
	メールアドレス	career@po.kbu.ac.jp